

第41回 評議員会（2017年1月14日開催）報告

於：朝日生命大手町ビル 27F

1：趣旨

日本ユネスコ協会連盟(以下日ユ)の第41回評議員会に九州ブロック選出青年評議員として出席した件について個人の責任の下報告を行う。

内容については当日の資料及び記憶に基づくものであり、数字等の正確性については必ずしも保証するものではないことを明記する。

2：今回の主な内容

- ・加盟証書授与式（佐渡ユネスコ協会）
- ・第40回評議員会議事要録の承認
- ・日本ユネスコ協会連盟事業報告及び今後の日程
- ・組織・活動委員会からの報告
 - ①70周年ビジョン部会
 - ②組織運営部会
 - ③青年活動部会
 - ④定款・諸規定部会
- ・2017年度事業計画及び予算骨子
- ・その他
- ・日本ユネスコ国内委員会事務局からの報告

3：個人的に印象に残ったこと、及び感想

- 加盟証書授与式
 - 昨年11月に発足。
 - 開始時点の会員は50名以上。
 - 今回の授与式には会長が出席する予定だったが天候不順により監事が代理で出席。
- 第40回評議員会議事要録の承認
 - 特段指摘なし、承認。
- 日本ユネスコ協会連盟事業報告及び今後の日程
 - ブロック研究会については全て無事終了した。来年も同じテーマで開催の予定
 - ESD国際交流プログラムは100の募集枠に対して200の応募が集まった
 - 青少年活動助成については募集要項が改定され、判定も今までより厳しくする方針とのこと。スタディツアーに使うなどしたいという声も上がっている模様
- 組織・活動委員会からの報告
 - 70周年ビジョン部会
 - ビジョンの指針と展望については現在継続して意見募集中。
 - 頂いたご意見の中に、今回掲げている”Peace for Tomorrow”の文言に70年という文言がないというご指摘があったため、キャッチフレーズを設けることとした

文責：大分県ユネスコ協会連盟 佐藤隆士
(九州ブロック選出評議員)

→「仙台から始まり世界に広がった民間ユネスコ運動 70 周年記念 : Peace for Tomorrow」
PR 動画も作成し、公開を行う予定。

➤ 組織運営部会

会員の入退会について議論を実施

- ・ 島根県ユネスコ協会の退会が決定された
- ・ 山口県ユネスコ協会連盟の名称が変更となった（山口県ユネスコ連絡協議会）

今後について、組織の運営について検討を行っていく。

→団体名にユネスコと付いていてもユネスコ協会として加盟していなかったり、
退会後もユネスコ協会の名称を使い続けたりしている団体にも注意を行っていく方針。

➤ 青年活動部会

青年ユネスコ活動助成について厳しくなった点について説明があった

- ・ 対象となる分類自体は変化なし
- ・ 毎年継続して行う活動については 3 年間までという期限を設けるようにする
- ・ 全体経費の 20%は自分たちで負担とする

青年ユネスコ活動助成は現状応募が少ないため、各地で呼びかけを広く行って貰いたい
2017 年-2018 年の全国子どもキャンプは和歌山県での開催となった

➤ 定款・諸規定の変更について

評議員会の規定について変更を行ったため説明を実施

第 5 条について

「評議員会は、定款で定められたもののほか、次の事項を評議する」

→「評議員会は、定款で定められたもののほか、次の事項について参考意見を述べることができる」

上記により評議委員会はいくまで任意機関のため参考意見を頂く場となることが明示されたこととなった。

<質疑>（佐賀ユネスコ協会川原田氏）

評議員会は参考程度ということだが理事会での決定事項には評議員会ではどうすることもできないのか。

<回答>

結論としてはそのとおりである。

そもそも公益社団法人としては評議員会を置く必要もないが、ユネスコとしては存在が必要と言う思いから設置しているものである。

以前は中央委員会と言うものも有り、理事会、評議員会と合わせて 3 つの場が持たれていたがこれはあまりにも煩雑だった。

法律上設置の義務はなく、定款の規定としても決定力を持つ会ではないが、評議員の皆さんの意見をできるだけ汲み取って反映していく場でありたいと思っている。

● 2017 年度事業計画及び予算骨子

新規の項目について説明が行われた。

日中韓青年文化フェスティバルについて、今年は東京開催

ミャンマー寺子屋の項目が追加になった

今後の財源確保については遺贈に着目し、呼びかけを行っているとのこと。

世界寺子屋運動の新規事業については、以前からもう一カ国追加を検討していたとのこと

→ミャンマーの識字率は低く、現在のパーセンテージも小学校二年生レベル以上を計上している
(本来は小学校4年生程度が基準値)

当面は3年間の予定で、2017年度は540万円を想定している

● 日本ユネスコ国内委員会事務局からの報告

持続可能な開発のための教育の推進～今日よりいいアースへの学び～

文部科学省国際統括官付 国際統括官補佐 鈴木規子氏

- ・ ESD と国際的な動き
- ・ ESD 推進ネットワーク
- ・ ユネスコ／日本 ESD 賞
- ・ ESD 推進の手引と活用
- ・ ESD の推進拠点としてのユネスコスクール

ユネスコスクールについて、現在承認が滞っている状況について説明があった。

現在日本では申請中も含めると 1000 校を超える学校が存在しており、日本ではユネスコスクー
ルを ESD の推進拠点として位置づけている

→モデル校としての ESD の推進と実践、一般へのフィードバックも行われている。

「ユネスコスクールとして大切なこと」というガイドラインも設けている

そんなユネスコスクールだが現在は認可が降りないとして各地から問い合わせが来ている

- ・ 現在申請を行っている学校については国内委員会から本部へ働きかけを行っている
- ・ 日本のユネスコスクールリストには申請中の学校も加盟申請中として掲載する
→ホームページやパンフレット等に掲載して全体に共有している

申請が一時的に停止となっている経緯については以下のように説明があった

- ・ 加盟している学校の3割が10カ国に集中している事
→全体で1万校存在しているうちの1000校近くが日本にある
→日本については正しく機能していることを認めてもらっている
活動が途切れたり、中身のない報告を行ったりということはしていない。
- ・ メンバーシップに期限がなく、不活発な学校がでていいるのではないか
→メンバーシップ期限の導入や各国の加盟申請の際に基準を設けることが検討されている。

今後の活動方針については以下のようなお話があった。

1：事前セレクションの検討

- ・ チャレンジ期間を導入し、実際にユネスコスクールの活動をしているという実績を作る
- ・ 推薦基準を導入し、これまでなかった明確な基準を提示する。
→ガイドラインはあるので、無理のない範囲で見せていく事を検討中

2：効果的、効率的なフォローアップの検討

- ・国際的なビジビリティの向上

- 現状国際的な取り組みは不足していると思われる

- ユネスコスクールに参加することはワールドワイドな学校間ネットワークに加盟している事となる。

- 国内でクローズしている活動となっており、国際的に何をしているか見せていく

- ・OTA(ユネスコ本部に開設されたユネスコスクールのウェブサイト)の活用

- ユネスコ本部からも直接見られるものになるので、各学校でしっかりと使っていくようにしてもらいたい

- ユネスコスクールHPにも日本語でいいので発信していってもらいたい。

- ・当面は、すでに申請中の学校の承認に向けて働きかけを行っていく。

- 年度内に申請プロセスの新ルールを策定できるように検討する。

- ※新ルールの確定まで、新規申請は一旦保留となる。

- 所感

評議員会の役割が定款として参考意見と明記されたことに疑問を感じた。

理事会での決定事項を周知し、それに対する意見を述べるだけの場であればアンケート形式にしてもあまり変わらないのではないと思われる。

全国から各地の代表者が集っている場であるからこそ議論を行い、全体の意思決定につなげるプロセスであってほしいと思う。

国内委員会事務局からの報告の際にも感じたが、全体としてのユネスコスクールにかける期待が非常に高いと思う。

しかし、ユネスコ協会としてはあくまでユネスコスクールの上にあるものではなくそれぞれに独立して活動を行うものと言う認識であるので、そこばかりに注目するのではなく、各地で行ってきた活動を更に高めていくことについても検討していく場となれば良いと感じた。

以上